■今月の特選句

2014年8月号

権利金敷金不要西日付　小林英昭

昭和を彷彿の一句。「なにゆえに家賃が安い角の部屋」「環境の悪さで鍛え忍耐力」「隣り合ふ墓地よりなに蚊飛んでくる」「階下は飲食深夜営業」。

放屁虫敵に後ろを見せて勝つ　永島董玉

「悪臭は生物兵器とも言える武器」「その臭ひステルス並みに形掴めず」「拳闘の試合前には蕃を食ひ　後ろを見せて必殺の技」。

目にものを言はさぬ為のサングラス　高橋素子

「目にものを言はせるときの目は自身」「目にものを見せてのときは相手の目」「ものを言ふ目を拒まむとサングラス」などと。

贅肉の日陰干なりハンモック　柳　紅生

「ハンモック高所恐怖症には苦手」「陰干の心算がいつか直射下に」「犬猿の仲が並べてハンモック(反目)」「ハンモック高いところで指図する」。

逆引きの辞書をひもとく戻り梅雨　八洲忙閑

「逆引きの辞書とはお洒落もどり梅雨」「逆引きは電子辞書にも返り花」「俳人の忙閑さんは紙の辞書　なぜなら句にはひもとくとある」。

うるさかる蚊を閉ぢ込めて広辞苑　田中早苗

「血を分けた関係なれど縁切りに」「憎き蚊を幽閉したる広辞苑」「幽閉をされて勉強蚊学者に」「幽閉は圧死の刑と思はれる」。

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

■今月の秀逸句　（・・・七七をつけてみました）

ほうたるの帰属に揺れる村境　横山喜三郎
・・・煙はでずも熱き戦い

海の日や記憶の底の鰓呼吸　百千草
・・・辰の落し子時代のことも

省エネの一役担ひ化け屋敷　山下正純
・・・お化けの役は暑いでしょうが

地震の夜足でしめつけ竹夫人　松井まさし
・・・骨折をしたら障害保険を

朝顔や贔屓の色に水遣りぬ　有冨洋二
・・・乾いた花は屈辱色に

末席の枝豆たちどころに空　久松久子
・・・酒池肉林は上席のみか

近眼の目付きで見つめ天使魚　麻生やよひ
・・・美人はなぜか近眼多し

吾に似て頑固一徹夏の風邪　入江澄泉
・・・頑固一徹それを褒めたい

草笛の鳴らずじまひに日の暮れる　越前春生
・・・草笛は下手俳句が巧い

園児らに好きに遊ばれ蝸牛　井口夏子
・・・遊びが過ぎて虫は角出す

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

サングラス同士の会釈誰だつけ　田村米生
・・・相手も同じ一句を得しか

地虫鳴く耳鳴りに先がけて鳴く　武智かずを
・・・耳鳴り地虫聴き分け上手

夏暑し電柱の陰細かりし　久我正明
・・・メタボを棚にあげての一句

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

■今月の滑稽句

【佳作】	オノロケの愚痴を聞かされ心太	青木輝子
	溽暑の日妻に疎まれ偏頭痛	青木輝子
	飽食の果ての予備軍冷奴	青木輝子
【佳作】	スカートを揺らしてゆくは文月風	青山桂一
	雨籠る襖開けつつ文月へと	青山桂一
	高梢で遠望するや白鷺は	青山桂一
【佳作】	夜干梅心の乾きいやしけり	秋月裕子
	嬉しさに涙が出ちゃう七変化	秋月裕子
	大夕焼棚田に映えていたりけり	秋月裕子
【佳作】	三尺寝してもスマホは手放さず	麻生やよひ
	でで虫の軽々運ぶマイホーム	麻生やよひ
	水打てば夜の蝶々の飛び始む	有冨洋二
	嫌なもの奥へ奥へと冷蔵庫	有冨洋二
【佳作】	サングラスの漢（おとこ）に道をゆづりけり	有吉堅二
	悪女にも鬼女にもなれずサングラス	有吉堅二
	ごきぶりに高括られてしまひけり	有吉堅二
	すててこや名ばかり部長に昇進す	飯塚ひろし
【佳作】	鮒鮓や琵琶湖は大き水溜り	飯塚ひろし
	子を連れて又も出戻り麦こがし	飯塚ひろし
	丸見えの大臣都議の含羞草	井口夏子
【佳作】	胸中の鬼がちらほら黒扇子	井口夏子
【佳作】	お行儀の悪さ堂々少女の夏	池田亮二
	好きな子におつきあいして熱中症	池田亮二
【佳作】	筋肉に怠け癖つく日の盛	石川セツコ
	ここからは高齢者となる登山道	石川セツコ
	星合や今年の彼女は違ふ星	伊地知寛
	行水や昭和の母の丸かった	伊地知寛
【佳作】	夏空や岡本太郎のやうな雲	伊地知寛
【佳作】	長閑さに脱いだ上着の白髪取り	伊藤慈秀
	春の宵テレビでナイター妻ふてね	伊藤慈秀
	そこひ去り視界開けて梅雨に入り	伊藤慈秀

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

【佳作】	一眼レフ人払いして薔薇写す	伊藤浩睦
	梅雨出水建売住宅川流れ	伊藤浩睦
	梅雨晴間今日の天気は登り坂	伊藤浩睦
【佳作】	人が皆偉くみえる日浮いて来い	稲沢進一
	風車すこし遅れて休みけり	稲沢進一
	極楽にみえて帰らず蟻地獄	稲沢進一
【佳作】	七夕のロマン吹っ飛ぶ雨予報	井野ひろみ
	父の日と子に耳打ちす母のあり	井野ひろみ
	散髪を毛嫌いしおる毛虫かな	入江澄泉
【佳作】	七日ほど寝込めば屋根へ今年竹	入江澄泉
	敬老会こそあど言葉の輪に入る	上山美穂
	大型の台風とママ要警戒	上山美穂
【佳作】	ぎょうせん売の声は録音かも知れぬ	上山美穂
	酔芙蓉酔ひの回りし花ばかり	氏家頼一
	何流で啜るも勝手ところてん	氏家頼一
【佳作】	閲兵の向日葵の列頭右	氏家頼一
	雨宿り夕立の軒に雀たち	梅岡菊子
【佳作】	病める子の眠りの静か夜の秋	梅岡菊子
	看病の夜に日をつぐ梅雨の冷え	梅岡菊子
	父の日と言へど晩酌芋焼酎	越前春生
【佳作】	蟹股で鮎釣ってゐる女かな	越前春生
	朝市にカット南瓜も顔並べ	奥脇弘久
【佳作】	憂きことも水に流して冷奴	奥脇弘久
	梅雨明けてサマージャンボの夢を買ふ	奥脇弘久
	青梅雨に洗ふ内障（そこひ）の眼玉かな	笠　政人
	父の日の尿洩れパンツひそと買ふ	笠　政人
【佳作】	紫陽花の額が出しやばる静物画	笠　政人
	台風来水道の水ぬるませて	加藤澄子
【佳作】	水田に稲を植えても植えんずデー	加藤澄子
	雷に怒鳴られ大木項垂れる	加藤澄子
【佳作】	召さるると思へば不安昼寝爺	加藤　賢
	酔つぱらふこと思はざり暑気払	加藤　賢

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	過るとき舗道の毛虫全速力	加藤　賢
	雑談と夕日断ち切る古簾	門屋　定
	梅雨空に千二百年の霊場かな	門屋　定
【佳作】	短夜や延命治療拒否書作り	門屋　定
【佳作】	しんねりとむつつりとかたつむりかな	金澤　健
	腕白や飲みつ透かしつラムネ瓶	金澤　健
	花街やぽつりぽつりと誘蛾灯	金澤　健
【佳作】	むくむくと入道生れて雲の峰	川島智子
	あぢさゐのさんざめく声耳鳴す	川島智子
	夕薄暑赤子と犬がなき止まず	川島智子
	ステテコを下着と言うな今パンツ	岩窟王
	ステテコが世間を闊歩涼やかに	岩窟王
【佳作】	アロハ着てステテコ着けて六本木	岩窟王
	炎天に逃れ休らふ愛煙家	菅野あたる
	老翁も眦（まなじり）ひらく暑さかな	菅野あたる
【佳作】	風鈴を吊れば見に来る江戸雀	菅野あたる
【佳作】	新築の流血事件蚊を叩く	久我正明
	夏夕陽島の形に欠けにけり	久我正明
	屈伸の膝の鳴るなり草いきれ	工藤泰子
	蛞蝓の這うて足跡残しをり	工藤泰子
【佳作】	水を得てなめらかなりしなめくぢら	工藤泰子
【佳作】	空梅雨と舐めたらアカンゲリラ雨	黒田忠一
	仰向に寝転んで掩ぐサクランボ	黒田忠一
	「く」の字なる胡瓜の苦渋如何ばかり	小泉花子
	後出しのジャンケンポイやさくらんぼ	小泉花子
【佳作】	とんぼ飛ぶその後又その後ろ	小泉花子
	雲の峰ああ綿菓子が食べたいな	小林英昭
【佳作】	箱庭に世界遺産がつめこまれ	小林英昭
【佳作】	父の日や父の評価は明白に	酒井鹿洋
	青春や日々毎日の更衣	酒井鹿洋
	鬼やんま赤の縄張り限りなく	酒井鹿洋
	青ガエル紫陽花の下ランデブー	佐藤義子

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	天の川見上げて遠し恋の道	佐藤義子
【佳作】	かたつむり殻忘れてるナメクジか	佐藤義子
【佳作】	願ひ数多七夕竹の重さかな	下嶋四万歩
	ごきぶりにこの世の恐怖知らされる	下嶋四万歩
	昼寝妻ロトもジャンボも好きであり	下嶋四万歩
	父の日の嬉し涙に尿零れ	壽命秀次
	ほたる狩り巨乳の背に導かれ	壽命秀次
【佳作】	実っても頭は絶対垂れぬ麦	壽命秀次
【佳作】	根つからの不精者なり水中花	白井道義
	歯科眼科内科掛け持ち梅雨晴間	白井道義
	休肝日また先送りビール飲む	白井道義
	自衛権　梅雨時ですそっとしておいて	鈴木和枝
	夕べ酒に酔ってもったいない時間	鈴木和枝
【佳作】	こっち向いてあなたが団栗の花	鈴木和枝
	カレー食べ座卓テーブル扇風機	鈴木哲也
【佳作】	夏仕度整理箱には参考書	鈴木哲也
	髪洗ひYシャツ着てきスニーカー	鈴木哲也
【佳作】	香水も混ざれば臭しエレベーター	髙田敏男
	暑気払い裏目に出たり車かな	髙田敏男
	断水で水に流れた水芝居	髙田敏男
【佳作】	夏座敷あちらもこちらも老女のみ	高橋きのこ
	兄よりの写メ孫と自作の大キューリ	高橋きのこ
	脛毛剃りツルンと短パン白サンダル	高橋きのこ
	掃除機でダニの百万都市壊す	高橋マキコ
	W杯選手の肩の大バッタ	高橋マキコ
【佳作】	刻一刻進路修正野分行く	高橋マキコ
	暴れ梅雨倒せし大樹遠巻きに	高橋素子
【佳作】	麦の秋踏まれた過去が実を結び	高橋素子
【佳作】	蔓草の地に長ければ蟻地獄	武智かずを
	雲の峰聖木曜日金曜日	武智かずを
	遠花火耳の記憶のすみにあり	田中章子
【佳作】	雹にあひ思はず季語を調べけり	田中章子
	かなぶんのしがみつき泣くご長男	田中章子

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	あぢさゐの色付き始めるなりけり	田中　勇
【佳作】	あやめかな老人のエロス誘ふ	田中　勇
	どくだみの十字や何か呟く気	田中　勇
【佳作】	塩吹きて運命知らぬ桶浅蜊	田中早苗
	蛙の夢果てし骸やひび割田	田中早苗
【佳作】	対岸の夕立見てゐる晴れ女	田村米生
	時計草よりあてになる腹時計	田村米生
	制服を超ミニにして更衣	津田このみ
	七夕の短冊願い書ききれず	津田このみ
【佳作】	半夏生休日の妻半化粧	津田このみ
	荒南風や天の御機嫌そっとみる	土屋泰山
	玄関に毛虫の密会ファッションショー	土屋泰山
【佳作】	短距離走東奔西走油虫	土屋泰山
	燻されて回す蚊の目の左巻き	都吐夢
【佳作】	父の日や父に回せる勘定書	都吐夢
	天花粉ついでに鼻の頭へも	都吐夢
	父の日の父徒然に草子読む	飛田正勝
【佳作】	ハンガーに掛ければ浴衣怒り肩	飛田正勝
	と金にもなれず父の日祝ひけり	飛田正勝
	幼子の色紙目をひく星まつり	永島董玉
【佳作】	朝顔の萎るるころに起きだして	永島董玉
【佳作】	梅干して一人前の婆となり	新島里子
	蚯蚓一匹こんがらがつてをりにけり	新島里子
	はばたいて心許なき羽抜鶏	新島里子
【佳作】	白地着て新装の窓ひとつだけ	西をさむ
	御陀仏の蚊取線香上り立つ	西をさむ
	網戸より並の暮しの匂かな	西をさむ
	スモッグでやや水不足の天の川	花岡直樹
	呑み過ぎて彦星寝坊待ちぼうけ	花岡直樹
【佳作】	この暑さ残暑というのに何ざんしょ！	花岡直樹
	居眠のいづくに降るる冷房車	原田　曄
【佳作】	あんパンのへそに黒胡麻かたまれる	原田　曄

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	もんじゃ焼く七夕にくるあの二人	原田　曄
【佳作】	雨垂れのごときピアノや子供の日	ひがし愛
	孟母とも幼なともなり生身魂	ひがし愛
	百足虫出づはやも子猫の玩具なり	ひがし愛
【佳作】	消火栓からめ捕ったる灸花	久松久子
	腰曲げてヘルニア痛の阿波踊り	久松久子
	叩かないで下さいの札大西瓜	日根野聖子
	大向日葵肩の辺りを揉みましよか	日根野聖子
【佳作】	夏草や何隠さむと画策か	日根野聖子
	生まれつき邪である縞蜥蜴	広瀬雅幸
	岩肌を楽しむやうに蝸牛	広瀬雅幸
【佳作】	イケメンのつんつるてんの浴衣かな	広瀬雅幸
【佳作】	先輩の取り繕ひや蝿たたき	藤岡蒼樹
	大盥泳ぐ鮴追ふ指の戯れ	藤岡蒼樹
	海草を体よく潜り水中花	藤岡蒼樹
【佳作】	梅雨最中足湯(フットバス)でストレス吹つ飛ばす	藤森荘吉
	暑さ故遊び惚けてゐる私	藤森荘吉
	浴衣着て諸肌なんぞ脱げぬ吾	藤森荘吉
	老鶯の声紫陽花の繁みより	藤原セツ子
	底無しの寂しさのあり五月晴	藤原セツ子
【佳作】	怒鳴り続ける世直しの大雷	藤原セツ子
	紫陽花の青淡く濃くまた緑	松井寿子
	いよいよ真つ青に夏の皿ケ嶺	松井寿子
【佳作】	健康の二文字七夕の短冊に	松井寿子
	夏木立少女のさはる馬の尻	松井まさし
	ラムネ飲みげっぷ合はすや老仲間	松井まさし
	痩蛙ガマの油をぬりにけり	松尾軍治
	ぷつつんと切れる音する炎暑かな	松尾軍治
【佳作】	人以外皆ことごとく素足なり	松尾軍治
【佳作】	面白うてやがて哀しきW杯	丸山紘一
	二枚舌ヤジ犯を撃つはたた神	丸山紘一
	憲法が手玉に取られ七月来	丸山紘一

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	葛の蔓いよよ地球覆はんと	三橋百笑
	さくらんぼ種飛ばしつつ山寺へ	三橋百笑
【佳作】	灯台の灯りがつまみ飲むビール	三橋百笑
【佳作】	己が影かくも小さき日の盛	宮森　輝
	西日差す壁に黄ばみしセロテープ	宮森　輝
	夕焼やコップの中も白樺も	宮森　輝
	吾の影に躓いてゐし炎天下	百千草
【佳作】	昼寝覚めこの世へ一歩踏み出だす	百千草
	守宮指しうちの子と言ふ夫なり	森岡香代子
	雑草の勢ひ止まらず夏に入る	森岡香代子
【佳作】	追いかけし支えたくなる虹の帯	森岡香代子
【佳作】	W杯最下位なりザックばらん	森　要
	願い事天に委せる星祭	森　要
	冬春夏加齢加速の八十路かな	森　要
	白花にあれど名札は百日紅	八木　健
	古びたる団扇の美人齢とらず	八木　健
【佳作】	月見草と呼ばれ続けて待宵草	八木　健
【佳作】	行々子かしまし娘よりましや	八洲忙閑
	箸持ちて剣豪きどり蝿さばく	八洲忙閑
【佳作】	海風を天敵として夏帽子	柳　紅生
【佳作】	扇風機風評左右に受け流し	柳　紅生
【佳作】	夏祭津軽なまりのじやわめくじや	柳澤京子
	翅欠いたとんぼくわえて自慢猫	柳澤京子
	大花火ひねる頚椎あゝしんど	柳澤京子
【佳作】	紫陽花や雨に虹んだ色となり	山下正純
	雨ニモマケズ墨田の花火打ち上がり	山下正純
	晩酌のつもりでちびり梅酒かな	山本けい子
【佳作】	雨傘の代わりに日傘通り雨	山本けい子
	紫陽花の鉢の下が好き団子虫	山本けい子
	金鳳花お釈迦になつてしまひけり	山本　賜
【佳作】	人人に掴まつてゐる滝の前	山本　賜
	身づくろう鳥のよやうにも夏の駅	山本　賜

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

【佳作】	矍鑠と艶聞ふりまく生身魂	横山喜三郎
	捕虫網口出し手出し泣かれたる	横山喜三郎
	養生の身にも幸あれ星祭	渡辺さだを
【佳作】	バリトンの歌手も号泣男梅雨	渡辺さだを
	ワールドカップ青空梅雨空鬩ぎ合ひ	渡辺さだを

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。